



action string から D までのコマンド

- [action string から D までのコマンド, 1 ページ](#)

action string から D までのコマンド

action string compare

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、2つの等しくないストリングを比較するには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string compare** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string compare [*nocase*] [*length integer*] *string1 string2*

no action label string compare

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できません）。アクションは、ラベルをソート キーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
nocase	（任意）大文字と小文字を区別しない比較を指定します。
length	（任意）比較を最初の整数文字に制限します。
<i>integer</i>	（任意） length 引数の有効な値の範囲は 1 ～ 4294967295 です。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。
<i>string2</i>	文字のシーケンス。

コマンド デフォルト 等しくないストリングは比較されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン スtringの比較は、左から右に向かってバイトごとに行われます。Stringの長さが等しくない場合、長いStringのほうが短いStringよりも多く比較されます。**action string compare** コマンドは、2つの等しくないStringを強制的に比較し、続けてString比較の結果で整数比較を行います。

2つの等しい同じ文字列を比較した場合の結果は0、一方のStringが他方のStringの前にソートされる場合の結果は-1になります。その他のすべての比較の結果は1です。比較されている文字列が整数に変換された場合は、**strcmp** コマンドを使用して結果同士の比較が行われます。

次の表に、**action string compare** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 1 : **action string compare** コマンドの EEM 組み込み変数

組み込み変数	説明
\$_string_result	action string compare コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、2つの等しくないStringを比較する例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet compare
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this contains some $str"
Router(config-applet)# action 2 string compare nocase length 3 "contains" "$str"
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。

action string equal

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、2つのストリングが等しいかどうかを確認するには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string equal** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action *label* **string equal** [**nocase**] [**length** *integer*] *string1* *string2*

no **action** *label* **string equal**

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できません）。アクションは、ラベルをソート キーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
nocase	（任意）大文字と小文字を区別しない比較を指定します。
length	（任意）値の長さを指定して比較を制限します。
<i>integer</i>	（任意） length 引数の有効な値の範囲は 1 ～ 4294967295 です。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string2</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。

コマンド デフォルト ストリングが等しいかどうかは確認されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

action string equal コマンドは、2つのストリングを比較し、ストリングが等しい場合は1を返します。大文字と小文字を区別しないで比較する場合は、**nocase** を使用します。

次の表に、**action string equal** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 2: **action string equal** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string equal コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、2つのストリングが等しいかどうかを確認する例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet equal
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this contains some data"
Router(config-applet)# action 2 string equal "contains" "data"
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。

action string first

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、*string1* の最初の出現で、インデックスを *string2* に返すには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string first** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string first string1 string2 [index-value]

no action label string first

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string2</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>index-value</i>	（任意）最初のテストを開始するインデックス値。番号の範囲は 0 ～ 4294967295 です。

コマンド デフォルト *string1* の最初の出現で、インデックスは *string2* に返されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン *string1* の最初の出現で、*string2* にインデックスが配置されます。*string1* が見つからない場合は、-1 を返します。

次の表に、**action string first** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 3: **action string first** コマンドの EEM 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string first コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例 次に、*string1* の最初の出現で、インデックスを *string2* に返す例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet first
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this contains some data"
Router(config-applet)# action 2 string first "contains" "$str"
Router(config-applet)# action 3 puts "$_string_result"
Router# event manager run first
5
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string last	<i>string1</i> の最後の出現で、 <i>string2</i> にインデックスを返します。
event manager applet	EEM にイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーションモードを開始します。

action string index

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、特定のインデックス値に指定された文字を返すには、アプレット コンフィギュレーションモードで **action string index** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no**形式を使用します。

action label string index *string* [*value*| *end*]

no action label string index

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できません）。アクションは、ラベルをソート キーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>value</i>	（任意）インデックス値。番号の範囲は 0 ～ 4294967295 です。カウントは 0 から始まります。
<i>end</i>	（任意）ストリングの最後の文字。

コマンド デフォルト 特定のインデックス値で指定された文字は返されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン インデックス番号はゼロから始まります。 *end* 引数は、ストリングの最後の文字に使用します。

次の表に、**action string index** コマンドが文字を保存する組み込み変数を示します。

表 4: **action string index** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string index コマンドは、この変数に文字を格納します。

例

次に、特定のインデックス値で指定された文字を返す例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet index
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this is text"
Router(config-applet)# action 2 string index "$str" 8
Router(config-applet)# action 3 puts "$_string_result"
Router# event manager run index
t
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーションモードを開始します。

action string last

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、*string1* の最後の出現で、インデックスを *string2* に返すには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string last** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string last *string1 string2* [*index-value*]

no action label string last

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string2</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>index-value</i>	（任意）最後のテストを開始するインデックス値。番号の範囲は 0 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト *string1* の最後の出現で、インデックスは *string2* に返されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン *string1* の最初の出現で、*string2* にインデックスが配置されます。*string1* が見つからない場合は、-1 を返します。

次の表に、**action string last** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 5: **action string last** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
\$_string_result	action string last コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例 次に、*string1* の最後の出現で、インデックスを *string2* に返す例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet last
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this contains some data"
Router(config-applet)# action 2 string last "contains" "$str"
Router(config-applet)# action 3 puts "$_string_result"
Router# event manager run last
5
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string first	<i>string1</i> の最初の出現で、 <i>string2</i> にインデックスを返します。
event manager applet	EEM にイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーションモードを開始します。

action string length

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、ストリング内の文字数を返すには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string length** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string length string

no action label string length

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できません）。アクションは、ラベルをソート キーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。

コマンド デフォルト

ストリングの文字数は返されません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

action string length コマンドを使用して、EEM アプレットがトリガーされたときにストリング内の文字数を返すアクションを指定します。

次の表に、**action string length** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 6 : action string length コマンドの EEM 組み込み変数

組み込み変数	説明
\$_string_result	action string length コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、ストリング内の文字数を返す例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet length
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this contains some data"
Router(config-applet)# action 2 string length "contains"
Router(config-applet)# action 3 puts "$_string_result"
Router# event manager run length
8
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEM にイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。

action string match

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、ストリングがパターンに一致する場合は `$_string_result` に 1 を返すには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string match** コマンドを使用します。このアクションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action *label* **string match** [**nocase**] *string-pattern* *string*

no **action** *label* **string match**

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できません）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
nocase	（任意）大文字と小文字を区別しない比較を指定します。
<i>string-pattern</i>	大文字と小文字を区別しない比較のパターン。
<i>string</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。

コマンド デフォルト ストリングのパターン マッチングの結果は、`$_string_result` に返されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン スtringが指定されたパターンに一致する場合、結果は1です。パターンが一致しない場合は、結果は0です。

次の表に、**action string match** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 7: **action string match** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string match コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例 次に、Stringがパターンに一致した場合に `$_string_result` に 1 に返す例を示します。

```
Router(config-applet)# event manager applet match
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1 set str "this is some text"
Router(config-applet)# action 2 string match "$str" "this is"
Router(config-applet)# action 3 puts "$_string_result"
Router# event manager run match
1
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。

action string range

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、文字の範囲をストリングに保存するには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string range** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action *label* **string range** *string start-index end-index*

no **action** *label* **string range**

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソート キーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string</i>	最大 4294967295 文字の文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>start-index</i>	開始インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ～ 4294967295 です。
<i>end-index</i>	終了インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ～ 4294967295 です。

コマンド デフォルト ストリングは保存されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン **action string range** コマンドを使用して、EEM アプレットがトリガーされたときに文字の範囲をストリングに保存するアクションを指定します。 *start-index* および *end-index* 引数は、操作対象のストリングの範囲を指定します。

次の表に、**action string range** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 8 : **action string range** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string range コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例 次に、指定したストリングに文字の範囲を保存する例を示します。

```
Router(config)# event manager applet store
Router(config-applet)#
action 1.0 set string "This is some text"
Router(config-applet)# action 2.0 string range "$string" 0 6
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router(config-applet)# end
Router# event manager run store
this is
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEM にイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。

action string replace

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、指定したストリングの文字の範囲を置き換えることで新しいストリングを保存するには、アプレット コンフィギュレーションモードで **action string replace** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string replace string start-index end-index [new-string]

no action label string replace

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string</i>	最大 4294967295 文字の文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>start-index</i>	開始インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。
<i>end-index</i>	終了インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。
<i>new-string</i>	(任意) ストリングの文字の範囲を置き換える一連の文字。

コマンド デフォルト ストリングは保存されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

action string replace コマンドを使用して、特定のストリングの指定された文字を置き換えることで新しいストリングを取得します。 *new-string* 引数の値を指定しない場合、文字はスペースに置き換えられます。

次の表に、**action string replace** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 9: **action string replace** コマンドの *EEM* 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string replace コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、ストリング内の特定の文字を置換することで作成された新しいストリングを保存する例を示します。

```
Router(config)# event manager applet replace
Router(config-applet)# event none
Router(config-applet)# action 1.0 set string "This is some text"
Router(config-applet)# action 2.0 string replace "$string" 0 6 "that was"
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router (config-applet)# end
Router# event manager run replace
that was some text
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。

action string tolower

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、ストリングの特定の範囲の文字を小文字で保存するには、アプレットコンフィギュレーションモードで **action string tolower** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string tolower *string* [*start-index*] [*end-index*]

no action label string tolower

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string</i>	置換する必要がある文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>start-index</i>	（任意）開始インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ～ 4294967295 です。
<i>end-index</i>	（任意）終了インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ～ 4294967295 です。

コマンド デフォルト

ストリングは保存されません。

コマンド モード

アプレットコンフィギュレーション (applet-config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン **action string tolower** コマンドを使用して、ストリングの特定の範囲の文字を小文字で保存します。*start-index* および *end-index* 引数は、操作対象のストリングの範囲を指定します。

次の表に、**action string tolower** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 10 : **action string tolower** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string tolower コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例 次に、特定のストリングの文字の範囲を小文字で保存する例を示します。

```
Router(config)# event manager applet lowercase
Router(config-applet)# action 1.0 set string "This is a STRING"
Router(config-applet)# action 2.0 string tolower "$string" 11 16
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router(config-applet)# end
Router# event manager run lowercase
string
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string toupper	ストリングの特定の範囲の文字を大文字で保存します。
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーションモードを開始します。

action string toupper

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、ストリングの特定の範囲の文字を大文字で保存するには、アプレットコンフィギュレーションモードで **action string toupper** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action *label string toupper* *string* [*start-index*] [*end-index*]

no *action label string toupper*

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できません）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string</i>	置換する必要がある文字のシーケンスを指定します。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>start-index</i>	（任意）開始インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。
<i>end-index</i>	（任意）終了インデックスのストリング値。指定できる範囲は 0 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト

ストリングは保存されません。

コマンド モード

アプレットコンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン **action string toupper** コマンドを使用して、ストリングの特定の範囲の文字を大文字で保存します。 *start-index* および *end-index* 引数は、操作対象のストリングの範囲を指定します。

次の表に、 **action string toupper** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 11 : **action string toupper** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string toupper コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例 次に、特定のストリングの文字の範囲を大文字で保存する例を示します。

```
Router(config)# event manager applet uppercase
Router(config-applet)# action 1.0 set string "This is a string"
Router(config-applet)# action 2.0 string toupper "$string" 11 16
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router(config-applet)# end
Router# event manager run uppercase
STRING
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string tolower	ストリングの特定の範囲の文字を小文字で保存します。
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーションモードを開始します。

action string trim

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、文字列をトリムするには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string trim** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string trim string1 [string2]

no action label string trim

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意の文字列値を指定できます）。アクションは、ラベルをソート キーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。文字列に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。文字列に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string2</i>	（任意）文字のシーケンス。文字列に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、文字列をトリムするアクションはありません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

action string trim コマンドを使用して、文字列の文字をトリムします。このコマンドは、*string2* の文字を、*string1* の両端からトリムします。デフォルトでは、*string2* はスペースに対応します。

次の表に、**action string trim** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 12: **action string trim** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string trim コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、文字列をトリムする例を示します。

```
Router(config)# event manager applet trim
Router(config-applet)# action 1.0 set string "Hello How are you?Hello"
Router(config-applet)# action 2.0 string trim "$string" "Hello "
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router(config-applet)# end
Router# event manager run trim
How are you?
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string trimleft	1つの文字列分の文字を、別の文字列の左端からトリムします。
action string trimright	1つの文字列分の文字を、別の文字列の右端からトリムします。
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。

action string trimleft

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、1つのストリング分の文字を、別のストリングの左端からトリムするには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string trimleft** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string trimleft *string1* [*string2*]

no action label string trimleft

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string2</i>	（任意）文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、ストリングをトリムするアクションはありません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン **action string trimleft** コマンドを使用して、文字列を別の文字列の左端からトリムします。このコマンドは、*string2* で指定された文字を、*string1* の左端からトリムします。デフォルトでは、*string2* はスペースに対応します。

次の表に、**action string trimleft** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 13: **action string trimleft** コマンドの EEM 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string trimleft コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、1つの文字列を、別の文字列の左側からトリムする例を示します。

```
Router(config)# event manager applet trimleft
Router(config-applet)# action 1.0 set string "Hello How are you?"
Router(config-applet)# action 2.0 string trimleft "$string" "Hello "
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router(config-applet)# end
Router# event manager run trimleft
How are you?
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string trim	文字列をトリムします。
action string trimright	1つの文字列分の文字を、別の文字列の右端からトリムします。
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。

action string trimright

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、1つのストリング分の文字を、別のストリングの右端からトリムするには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action string trimright** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label string trimright string1 [string2]

no action label string trimright

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string1</i>	文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string2</i>	（任意）文字のシーケンス。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、ストリングをトリムするアクションはありません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

action string trimright コマンドを使用して、文字列を別の文字列の右端からトリムします。このコマンドは、*string2* で指定された文字を、*string1* の右端からトリムします。デフォルトでは、*string2* はスペースに対応します。

次の表に、**action string trimright** コマンドの結果が保存される組み込み変数を示します。

表 14 : **action string trimright** コマンドの **EEM** 組み込み変数

組み込み変数	説明
<code>\$_string_result</code>	action string trimright コマンドの結果がこの変数に格納されます。

例

次に、1つの文字列を、別の文字列の右側からトリムする例を示します。

```
Router(config)# event manager applet trimright
Router(config-applet)# action 1.0 set string "How are you? Hello"
Router(config-applet)# action 2.0 string trim "$string" " Hello"
Router(config-applet)# action 3.0 puts "$_string_result"
Router(config-applet)# end
Router# event manager run trimright
How are you?
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
action string trim	文字列をトリムします。
action string trimleft	1つの文字列分の文字を、別の文字列の左端からトリムします。
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。

action subtract

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、変数の値を別の値から減算するアクションを指定するには、アプレット コンフィギュレーションモードで **action subtract** コマンドを使用します。減算のアクションを取り消すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action *label* **subtract** {*variable-name*| *long-integer*} {*variable-name*| *long-integer*}

no **action** *label* **subtract**

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
subtract	変数の値を別の変数の値から引きます。
<i>variable-name</i>	変数名として配置されるストリング値。
<i>long-integer</i>	別の値を減算する長整数値。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、EEM アプレット内に設定された変数の値は変更されません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン このアクションを使用して、変数の値を別の変数の値から減算できます。結果は `$_result` という名前の変数に保存されます。変数の値は長整数である必要があり、これ以外の場合はアクションが失敗します。

例 次に、変数の値を別の値から減算するように EEM アプレットを設定する例を示します。

```
Router(config)#event manager applet one
Router(config-applet)#action 1.0 set $var1 20
Router(config-applet)#action 1.0 set $var2 10
Router(config-applet)#action 1.0 subtract $var1 $var2
Router(config-applet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
event manager applet	Embedded Event Manager にイベント アプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。

action track read

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、トラッキング対象オブジェクトの状態を読み取るアクションを指定するには、アプレットコンフィギュレーションモードで **action track read** コマンドを使用します。コンフィギュレーションから **action track read** コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label track read object-number

no action label track read object-number

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>object-number</i>	1 から 500 の範囲のトラッキング対象オブジェクトの番号。番号は、 track stub コマンドを使用して定義されます。

コマンド デフォルト

トラッキング対象オブジェクトの状態は読み取られません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。
12.2(31)SB3	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(31)SB3 に統合されました。
12.2(33)SRB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRB に統合されました。
12.2(33)SXI	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXI に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、次の結果の変数を生成します。

- **_track_state** : 指定されたトラッキング対象オブジェクトの状態。返されるテキストストリングは、**up** または **down** のいずれかです。状態が **up** の場合、オブジェクトが存在し、アップ状態であることを意味します。状態が **down** の場合、オブジェクトが存在しないか、またはダウン状態であることを意味します。

このコマンドは、EEMを使用したオブジェクトのトラッキングを支援するために使用されます。各トラッキング対象オブジェクトは、トラッキング コマンドライン インターフェイス (CLI) で指定された一意の番号で識別されます。EEM などのクライアント プロセスは、この番号を使用して特定のオブジェクトをトラッキングします。トラッキングプロセスは定期的に、トラッキング対象オブジェクトをポーリングし、値の変更を確認します。トラッキング対象オブジェクトの変更は、すぐに、または指定された遅延後に、対象のクライアントプロセスに通知されます。オブジェクトの値は、アップまたはダウンとして報告されます。拡張されたオブジェクトトラッキング イベント デテクタは、トラッキング対象オブジェクトが変化したときに EEM イベントをパブリッシュします。

例

次に、トラッキング対象オブジェクトに基づいてイベント基準を指定する例を示します。

```
event manager applet track-ten
event track 10 state any
action 1.0 track set 10 state up
action 2.0 track read 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
action track set	EEM アプレットがトリガーされたときに、トラッキング対象オブジェクトの状態を設定するアクションを指定します。
event manager applet	Embedded Event Manager にイベント アプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。
show track	トラッキング情報を表示します。
track stub	トラッキング対象のスタブオブジェクトを作成します。

action track set

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、トラッキング対象オブジェクトの状態を設定するアクションを指定するには、アプレットコンフィギュレーションモードで **action track set** コマンドを使用します。コンフィギュレーションから **action track set** コマンドを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label track set object-number state {up|down}

no action label track set object-number state {up|down}

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意のストリング値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。ストリングに空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>object-number</i>	1 から 500 の範囲のトラッキング対象オブジェクトの番号。番号は、 track stub コマンドを使用して定義されます。
state	トラッキング対象オブジェクトが設定される状態を指定します。
up	トラッキング対象オブジェクトの状態が up に設定されるよう指定します。
down	トラッキング対象オブジェクトの状態が down に設定されるよう指定します。

コマンド デフォルト

トラッキング対象オブジェクトの状態は設定されません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
12.2(31)SB3	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(31)SB3 に統合されました。
12.2(33)SRB	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRB に統合されました。
12.2(33)SXI	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SXI に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、次の結果の変数を生成します。

- **_track_state** : 指定されたトラッキング対象オブジェクトの状態。返されるテキストストリングは、**up** または **down** のいずれかです。状態が **up** の場合、オブジェクトが存在し、アップ状態であることを意味します。状態が **down** の場合、オブジェクトが存在しないか、またはダウン状態であることを意味します。

このコマンドは、EEMを使用したオブジェクトのトラッキングを支援するために使用されます。各トラッキング対象オブジェクトは、トラッキング コマンドライン インターフェイス (CLI) で指定された一意の番号で識別されます。EEM などのクライアント プロセスは、この番号を使用して特定のオブジェクトをトラッキングします。トラッキングプロセスは定期的に、トラッキング対象オブジェクトをポーリングし、値の変更を確認します。トラッキング対象オブジェクトの変更は、すぐに、または指定された遅延後に、対象のクライアントプロセスに通知されます。オブジェクトの値は、アップまたはダウンとして報告されます。拡張されたオブジェクトトラッキング イベント ディテクタは、トラッキング対象オブジェクトが変化したときに EEM イベントをパブリッシュします。

例 次に、トラッキング対象オブジェクトに基づいてイベント基準を指定する例を示します。

```
event manager applet track-ten
event track 10 state any
action 1.0 track set 10 state up
action 2.0 track read 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
action track read	EEM アプレットがトリガーされたときに、トラッキング対象オブジェクトの状態を読み取るアクションを指定します。

コマンド	説明
event manager applet	Embedded Event Manager にイベントアプレットを登録し、アプレットコンフィギュレーションモードを開始します。
show track	トラッキング情報を表示します。
track stub	トラッキング対象のスタブオブジェクトを作成します。

action while

Embedded Event Manager (EEM) アプレットがトリガーされたときに、条件付きブロックのループの開始を識別するには、アプレット コンフィギュレーション モードで **action while** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

action label while string-op1 operator string-op2

no action label while

構文の説明

<i>label</i>	一意な識別子（任意の文字列値を指定できます）。アクションは、ラベルをソートキーとして使用して、英数字のキーの昇順にソートされ、実行されます。文字列に空白が含まれる場合は二重引用符で囲みます。
<i>string-op1</i>	第 1 オペランドを指定します。
<i>operator</i>	<i>string-op1</i> および <i>string-op2</i> オペランドと一緒に使用される値で、現在のカウンタの値をどのように開始値または終了値と比較するかを決定します。次の値が有効です。 <ul style="list-style-type: none"> • gt : より大きい。 • ge : 以上。 • eq : 等しい。 • ne : 等しくない。 • lt : より小さい。 • le : 以下。
<i>string-op2</i>	第 2 オペランド。

コマンド デフォルト 条件付きブロックは指定されません。

コマンド モード アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

action while コマンドを使用して、ループ条件付きブロックの開始を識別します。ストリング内に `$_variable` が存在する場合は、式がテストされる前に代入されます。

例

次に、EEMアプレットがトリガーされたときに、条件付きブロックのループの開始を識別する例を示します。

```
Router(config-applet)# action 1 set _i 2
Router(config-applet)# action 2 while $_i lt 10
Router(config-applet)# action 3 action syslog msg "i is $_i"
Router(config-applet)# action 4 end
```

関連コマンド

コマンド	説明
action else	if/else 条件付きブロックの else ブロックの開始を識別します。
action elseif	if/else 条件付きブロックの開始を識別します。
action if	if 条件付きブロックの開始を識別します。
event manager applet	EEMにイベントアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。

attribute (EEM)

Embedded Event Manager (EEM) アプレットの複合イベントを指定するには、トリガー アプレット コンフィギュレーション モードで **attribute** コマンドを使用します。属性を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

attribute tag event-tag [occurs occurs-value]

no attribute tag event-tag [occurs occurs-value]

構文の説明

tag	イベントを関連付けるために attribute コマンドで使用できる <i>event-tag</i> 引数を使用して、タグを指定します。
<i>event-tag</i>	タグを識別するストリング。
occurs	(任意) EEM イベントがトリガーされる前の発生数を指定します。指定されない場合、EEM イベントは 1 回目から発生します。
<i>occurs-value</i>	(任意) 番号の範囲は 1 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト

EEM アプレットには、複合イベントは指定されていません。

コマンド モード

トリガー アプレット コンフィギュレーション (config-applet-trigger)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。
12.2(33)SRE	このコマンドが、Cisco IOS Release 12.2(33)SRE に統合されました。

使用上のガイドライン

トリガー アプレット コンフィギュレーション モードでは、複合イベントを作成するために、最大 8 個の属性文を指定できます。属性文が指定されていない場合、トリガー文のオプションは、アプレットで定義された最初のイベントに適用されます。

例

次に、**attributes** コマンドを使用して EEM アプレットに複合イベントを指定する例を示します。この例では、60 秒の期間内に **show bgp all** コマンドと「COUNT」というストリングを含む syslog メッセージが出現した場合にアプレットが実行されます。

```
Router(config)# event manager applet delay_50
Router(config-applet)# event
  tag 1.0 cli pattern "show bgp all" sync yes occurs 32 period 60 maxrun 60
Router(config-applet)# event
  tag 2.0 syslog pattern "COUNT"
Router(config-applet)# trigger occurs 1 delay 50
Router(config-applet-trigger)# correlate event 1.0 or event 2.0
Router(config-applet-trigger)# attribute tag 1.0 occurs 1
Router(config-applet-trigger)# attribute tag 2.0 occurs 1
Router(config-applet-trigger)# action 1.0 cli command "show memory"
Router(config-applet)# action 2.0 cli command "enable"
Router(config-applet)# action 3.0 cli command "config terminal"
Router(config-applet)# action 4.0 cli command " ip route 192.0.2.0 255.255.255.224 192.0.2.12"
Router(config-applet)# action 91.0 cli command "exit"
Router(config-applet)# action 99.0 cli command "show ip route | incl 192.0.2.5"
```

関連コマンド

コマンド	説明
correlate	1 つの複合イベントを構築します。
trigger (EEM)	トリガー アプレット コンフィギュレーション モードを開始し、EEM アプレットに対して複数 イベントのコンフィギュレーション文を指定します。

description (EEM)

組み込みイベントマネージャ (EEM) アプレットが実行する内容を説明するには、アプレットコンフィギュレーションモードで **description** (EEM) コマンドを使用します。アプレットの説明を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

description line

no description

構文の説明

<i>line</i>	240 文字までポリシーの簡単な説明。
-------------	---------------------

コマンド デフォルト

デフォルトでは、アプレットに説明は指定されていません。

コマンド モード

アプレット コンフィギュレーション (config-applet)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.0(1)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、EEM アプレットが実行する内容を説明します。アプレットに説明を付けなくても有効です。アプレットの説明は、他のアプレット設定の前でも後でも、任意の順序で追加できます。すでに説明があるアプレットに新しい説明を設定すると、現在の説明が上書きされます。

例

次に、EEM の説明を追加または変更する例を示します。

```
Router(config)# event manager applet one
Router(config-applet)# description "This applet looks for the word count in syslog messages"
Router(config-applet)# event syslog pattern
"count"
Router(config-applet)# action 1 syslog msg hi
```

関連コマンド

コマンド	説明
show event manager policy active	実行される EEM ポリシーを表示します。
show event manager policy available	登録可能な EEM ポリシーを表示します。